

# まち探訪 広大な海 雄大な山なみ 優しさ溢れる 日高町



## 日高町基礎データ

総人口 (住基台帳)	12,514人 (平成29年2月)	漁獲高 (金額ベース)	1,143,983千円 (平成27年北海道水産現勢)
高齢人口 (高齢化率)	4,129人、33% (同上)	製造品出荷額等 (総額)	1,298,024万円 (平成26年度工業統計調査)
世帯数	6,391世帯 (同上)	卸・小売年間販売額	18,942百万円 (平成26年度経済センサス (基礎調査))
面積	992.11km <sup>2</sup>	農業算出額 (軽種馬含む)	350,629万円 (JA、JRHA、HBA調べ)
人口密度	12.6人/km <sup>2</sup>	町木	カシワ
一般会計規模 (歳出額予算ベース)	114億3,800万円	町花	サクラソウ

問い合わせ先：日高町企画財政課 TEL01456-2-6181

## 合併10周年のまち日高町

平成の大合併——「本案は原案のとおり可決されました。」

平成17年3月23日、同時刻に両町で開会された町議会臨時会。

旧日高町と旧門別町が飛び地で合併したまちが日高町で、合併期日は平成18年3月1日。人口は、12,378人 (平成27年国勢調査)。日本一遠い飛び地合併らしく、旧町役場間の距離は、おおよそ65,000m。

平成28年3月1日で合併10周年の節目を迎えました。日高山脈のふもとに位置する旧日高町を「日高地区」と、太平洋に面している旧門別町を「門別地区」と一般的に呼称しています。町民は「山日高」、「海日高」とも呼称しています。本庁舎の所在地は門別地区で、日高地区には、日高総合支所を設置していません。

平成28年度は、合併10周年を記念し、当町のイメージソングを制作しました。

大地に抱かれて～日高讃歌～。日高町イメージソングのタイトルです。歌手の加藤登

紀子さん作詞作曲です。平成28年初夏、加藤さんが来町され、見聞きしたそのイメージを書き上げて歌ってくれました。10月には、町内でコンサートを開催し、翌年1月には、希望する町民の方にイメージソングCDを無料配付し、多くの町民の方に喜んでいただきました。

## 日高町の位置

両手の親指と人差し指を使って、少し細長い菱形を作ってください。極めて簡素な北海道地図ができあがります。左手の親指の第一関節付近が、太平洋に面した日高町門別地区です。両手はそのままで、今度は底辺を上げ気味の三角形を作ってください。左手の親指の第一関節から1センチ程度親指の先端付近が、日高山脈のふもとにある日高町日高地区です。日高町は、北海道地図では大体そのような位置になります。手の大きさや指の長さによって、位置が変わってきますが、方角さえ間違わなければ地図は必要ありません。思い立ったらすぐに訪れることが可能なまちで

すが、一度、お手元にある北海道地図で両地区の位置を確認してみてください。

## 産業と特徴

門別地区と日高地区では、自然環境や産業構造が異なっています。

軽種馬産業、農業、漁業、畜産業が盛んな門別地区は、薬用植物である甘草の栽培、ひげにんにくの無農薬栽培、食用ホオズキの商品化、地元で収穫できた酒米での日本酒製造など——特産品開発にチャレンジしています。

馬産地日高を象徴すべく「門別競馬場」があり、開催期間中は、グランシャリオナイターと銘打ってナイターレースが開催されています。

シシャモの遡上時期の10月下旬には「門別ししゃも祭り」を開催しています。バスツアーが企画されるほど人気のある祭りで、毎年、町内外から多くの方々が祭りに訪れ、旬のシシャモを会場内で堪能しています。

また、近年は、再生可能エネルギー発電施設の建設が多いのも門別地区の特徴です。

オートキャンプ場、国際スキー場、ラフティングなどのアウトドアが充実している日高地区は、日高山脈の大自然を相手にしたアクティビティーを中心とした観光産業がメインで、ゲレンデから徒歩2～3分の沙流川温泉ひだか高原荘や大勢の宿泊に適している国

立日高青少年自然の家などの宿泊施設もあります。

日高地区は、芝のサッカーコートが4面あるため、夏の宿泊施設は、スポーツ合宿にも多く利用されています。また、オートキャンプ場も大人気で、シーズン中は連日キャンパーで賑わっています。

7月下旬には、日高山脈に住む伝説の竜を守護神として、森の木々に感謝を捧げる祭り「ひだか樹魂まつり」が開催されています。

## 門別競馬場

「よしっ!そのままっ!」「ガンバレ!」「差せっ!」「ダメだ!差すな!!」「いけ〜!!」「キャァァ〜!!」

レース終盤のスタンドでは、このような短い言葉のやりとりがファンの間でなされ、スタンド一丸となってそれぞれの気持ちを共有させています。

レース前に、鼻唄のお馬さんに与えたタクティクス戦術。レースの最中、饒舌に語る人は皆無です。サラブレッドの発する胸に響く蹄の重低音、ゾーンに入った時に見る跳ね上げられた砂はスローモーションのよう。この迫力と体験は、コースとスタンドが間近にある門別競馬場ならではの。

全日程がナイター競馬で開催されているホッカイドウ競馬。そのすべてのレースが開



ひだか樹魂まつり



門別競馬場

催されている門別競馬場が日高町門別地区にあります。お楽しみはレースだけではありません。道民のソウルフードであるジンギスカンのほか、B級グルメも盛りだくさんです——

設定したKPI達成のため、レース直前まで繰り返される脳内会議はPDCAサイクルそのもの。新聞や馬体を見尽くした後の未来の姿は、サッカーW杯の優勝トロフィーを掲げる往年の名選手のごとき——

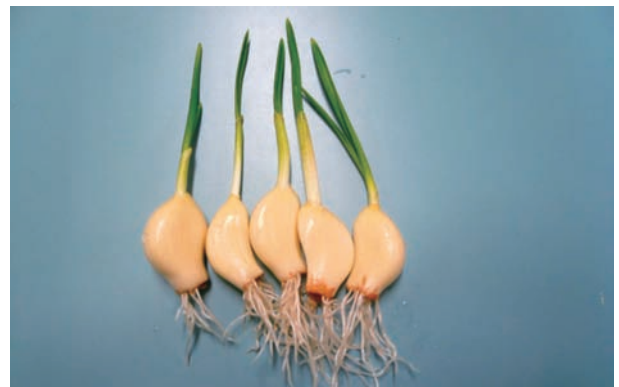
## 産地ブランドの確立に向け

無農薬栽培のひげにんにくは、専用のハウスで安心・安全に栽培。すでに、町内の飲食店だけではなく、都市圏の飲食店にも提供しています。オススメの食べ方は、シンプルな素揚げ。においが少なく味も良いため、高い評価を得ています。また、食べるイメージのないホオズキ。鑑賞用は毒々しいほど鮮やかな橙色をしています。食用ホオズキは、控えめで小ぶりです。フランスやイタリアでは盛んに栽培されており、ポピュラーな食べ物であるそうです。リキュールやカタラーナ、アイスクリームなど商品化に向け、試行錯誤中です。興味のある方は、当町農務課までお問い合わせください。

薬用植物の甘草については、当町の風土に適した甘草が生育してきていますので、引き続き、調査研究を進めていくこととしています。収穫できた甘草は「日高の甘草茶」として商品化され、道の駅樹海ロードひだかやネットで販売されています。ある愛飲者は、一般的に謳われていない未知の効能があったと、驚いています。その効能は、嘘か真実か。何らかの効能を期待しての単なるプラシーボなのか。医学的、科学的根拠はまったくの不明ですが、2016年流行語風に言えば、「髪つ

てる」らしいのです——

まだまだ発展途上の取り組みやチャレンジできる分野のある当町ですが、前述のほか、引き続き、産業振興、子育て支援等の福祉対策、台湾やタイなどの東アジア圏からの観光客の誘致、市街地活性化など、新しいポテンシャルを探しながら、地方創生に向けた取り組みを推進しています。



無農薬栽培のひげにんにく



食用ホオズキ



甘草茶